

先生から

No. 18

自由社



荒川町子





「今更には一人づつ、ちやんと

しょうかい  
紹介して下さい

「ハイ、この人、<sup>かくきゅう</sup>級委員

の加味おち子ちゃんです。

オトナシクテ、<sup>マサシクテ</sup>大人として一審勉

一え強がてきますし

18

東京版  
画屋版

自由社

東京荒川野屋二丁目四九  
電話(89)九二二九番

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五  
永田為春  
電話(三三〇)五九一一番

おれ社  
この会大  
加藤みち



18-3

みちまは先生に丁寧下  
おしきををした。

加藤女子  
大谷先生

加藤みちまさんねっしっ

かりやうとさいやっはり

3 落着いいな 庄屋

1 3 よろし

18 ハイと、みちま子由社

日、磨ったが、

東京都江戸川区臨海五丁目一七十五  
永田 為春  
電話(三七七)五九一一番

全東京版  
金久亦誠  
東京都荒川区野屋三丁目四九〇  
電話(89)九二二九番



集それを見て居た金太は

三口金太  
加藤あけ子

「何でえ。トングリに

ほめられー<sup>よろ</sup>ちかニんじや

から 4エツ<sup>ツ</sup>にんわ

ねえ。みち子の奴。あッが

同じクラスになつてから

4帰<sup>リ</sup>つし<sup>ま</sup>しから あいらの

一人気が全然<sup>一</sup>駈<sup>一</sup>身に

ちやうちやうちい

東京都江戸川区鹿野五丁目一七一五  
永田 為春  
電話(三光九)五九一一番

東京版劇  
金星版

自由社

東京都荒川区町屋三丁目四九〇  
電話(89)九二二九九番



18-5



先生は、

金太君

三ノムベノギを  
今の祈読

三ノムベノギ  
金太

いげ下さい

し

突然先生に名を呼ば

いほうといた金太は

夢中して上り 国語の

一本を南まきながら思わず

「お気にくわねえッ  
し

と、いっすしまつた

東京版劇  
金星版

自由社

金久保誠  
東京都荒川区西河原三丁目四九〇  
電話 09 九二二一九番

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五  
永田為春  
電話 (三九九) 五九一一番



「何だとッ」

「あう。しまつてッ」

「勉強が、気に入らなかつた」

「廊下にぞりまわす」

「6-3-18」

大谷先生  
川口金太郎

西東京  
金星  
劇版

自由社

東京都荒川区保誠一丁目四九〇番  
電話 03-9222-99

東京都江戸川区鹿野五丁目二七一五  
永田為春  
電話 (三六九) 五九一一番



畫齊  
查  
18

金太は廊下にまゝ士礼し  
しまつた。教室の中から

「みち子さん 読んで下さい」

「ハイ」

みち子の読む声が聞え

来る。

「ほいとくゝゝにムわねえッ

18 高田生ッ

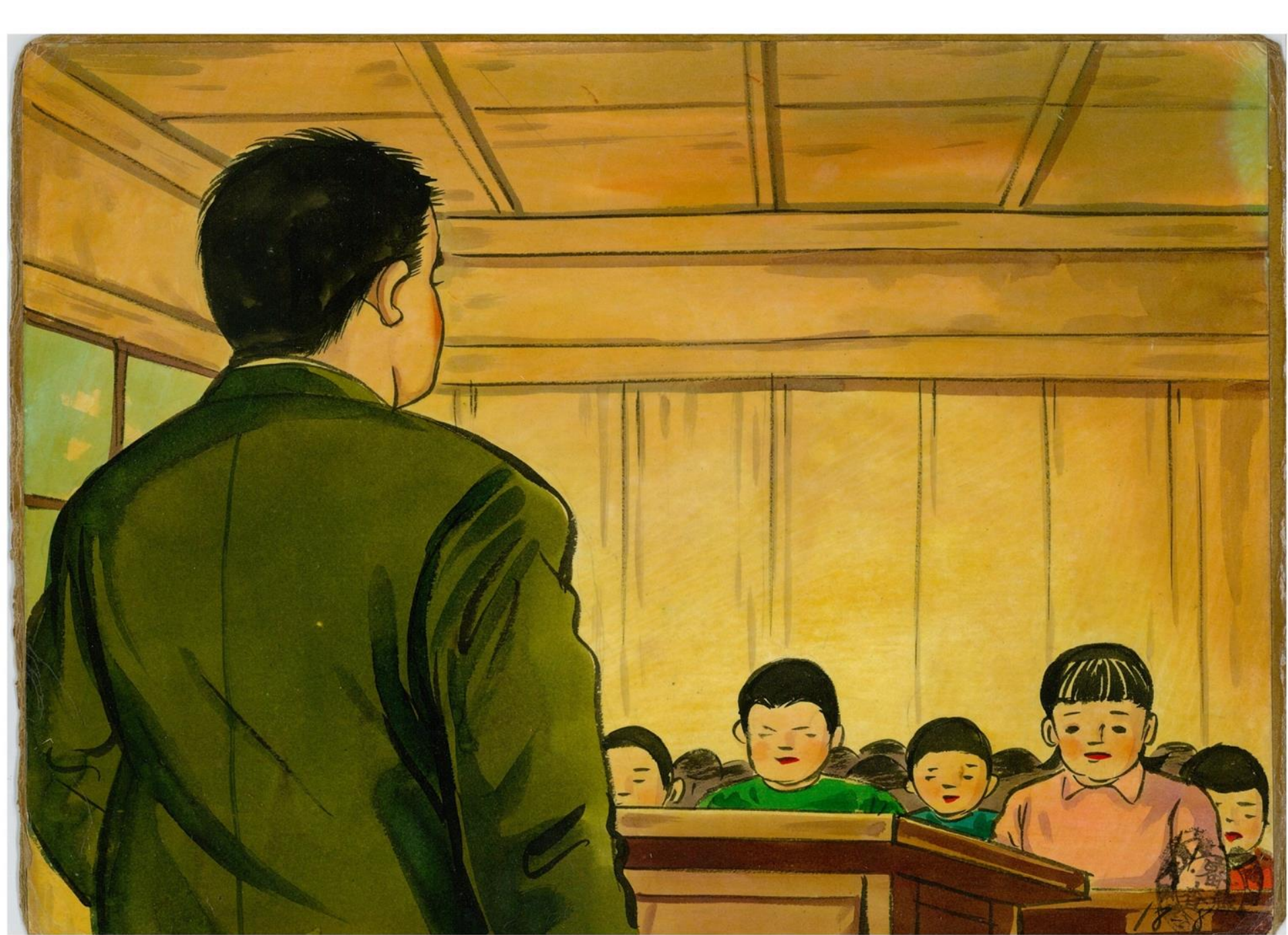
大谷 金太郎  
加藤 美津子

東京版劇  
金星

自由社

金久保誠一  
東京都荒川区西新屋三丁目四九〇  
電話 89 九二二九番

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五  
永田 為春  
電話 (三六九) 五九二二番



18-8

やかー  
カラシ〜と鐘が  
なつた。  
「ハ、では今日の授業  
は、ニルぞおしまい」

東京映画  
金星版

自由社

東京都荒川区保誠一  
電話 03-9222-99番

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五  
永田為春  
電話(三三七)五九一一番





「金太君も帰るよろし  
 こいからは乱棒な言葉  
 を使わずにみちまさいと見  
 羽白いたまさい、こいッ、こいな  
 こい顔しにらあなッ  
 18 19  
 この顔は生れつな  
 い

大谷先生  
 三〇金太

東京版  
 金星版

自由社

東京都荒川区野屋三丁目四九〇  
 電話 09 九二二九九番

永田為春  
 電話 (三七七) 五九一一番

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五



金太は風呂敷に入れた  
 教課書<sup>キョウカショ</sup>を背にくりり  
 つけとこえいにも放さぬ  
 牛の様に同級生の頭と  
 コケシくと叩きながら  
 「どけッ、どけい、和反  
 一者、金太様のお通りだ  
 18「お、お、乱棒だな」

三〇金太

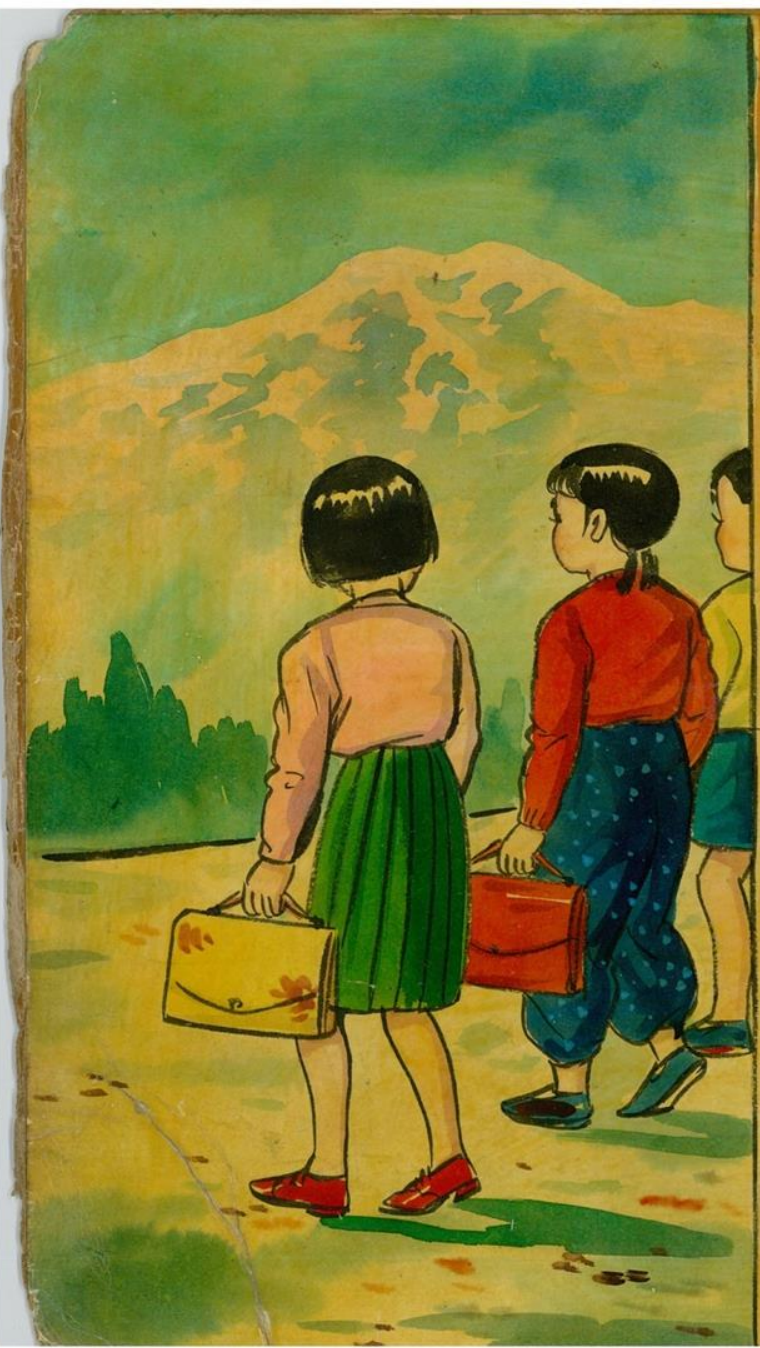
東京版劇  
金星版

自由社

金久保誠一  
東京都荒川区町屋二丁目四九〇  
電話 099 九二二九番

永田 春  
電話 (三三九) 五九一一番

東京都江戸川区鹿野五丁目一七十五



「みち子ちやん。一緒」

川口金太  
加藤みち子

「帰りますように」

東京都江戸川区鹿野五丁目一七一五  
永田 為 春  
電話(三七〇)五九二一番

「えい」

仲良く帰すべく物を

「おど」 眺める 金太

「チエツ」 面白くもねえ

「おみち子の奴」 いっ気になつ

「いやから」 何が、考え

「はな」 いかさまして 東京画 金屋版 金太 自由社

何を考えで居るのでせうかの

18—12

先生から手

終卷18

酒  
劇  
版  
版  
金  
京  
盤

自由社

東京  
都  
美  
川  
區  
町  
屋  
二  
丁  
目  
四  
九  
〇  
電  
話  
四  
九  
二  
二  
九  
番

東京  
都  
江  
戸  
川  
區  
鹿  
骨  
五  
丁  
目  
一  
七  
一  
五  
永  
田  
為  
春  
電  
話  
（  
三  
社  
）  
五  
九  
一  
一  
番